



Face to Face

NO.4

特定非営利活動法人 T I C O

国際救援財団(FIDR)助成金交付決定

カルブウエ地区参加型農村開発プロジェクト



開墾作業中・歌いながら頑張る女性たち



ヒダノ修一氏（和太鼓奏者）と
横浜のみなさんが送ってくれた救急車



ギルモア保育所の子どもたち
(チベンビ農業開発ローン)

<主な記事>

- ・ 『もったいない』は素晴らしい日本語
- ・ 「カルブウエ菜園プロジェクト」助成金獲得
- ・ チベンビ情報
- ・ 救急救助隊大忙し！
- ・ NPO法人TICO初めての収支報告

ティコは保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカ・ザンビア共和国で支援活動を行っている NGO（非政府組織）です。世界の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために 1993 年に任意団体として設立、2004 年 9 月に特定非営利活動法人（NPO 法人）となり活動を続けています。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

もったいない!

ノーベル平和賞受賞者『Wangari Maathai』が気付いたすばらしい日本語

吉田 修

ケニア人の彼女は、3000万本の植樹を行う「グリーンベルト運動」の主導者である。アフリカ大陸全土で植林活動を行い、民主化、持続可能な開発の推進に取り組んでいる。現在ケニアの環境・天然資源省副大臣、ケニア緑の党代表を務める。独裁政権時代は何度も逮捕、投獄されている。

来日の際、「もったいない」という言葉を知り感銘を受け、「もったいない」を世界の環境保護の合言葉にしようと提唱している。彼女によると、「もったいない」は4R (Reduce 消費削減、Reuse 再利用、Recycle 再資源化、Repair 修理)を表すとの事。

確かに「もったいない」は日本の文化の本質かもしれない。100万都市であった江戸は「もったいない」の4Rを徹底することにより、資源を消耗することなく、隅田川を澄み切った清流に保っていた。まさに持続可能な循環型社

会を実現していたのである。

残念ながら、最近の日本人は「もったいない」を忘れつつあるようだ。大量生産、大量消費でゴミの山を築き、地球温暖化を招くのが現代の経済成長というものらしい。

彼女が「もったいない」の価値に気付いてくれたことに感謝しつつ、日本人はもう一度身の回りの「もったいない」を再考しよう。食べ物、包装、エネルギー、輸送、過剰な快適さ、水、放置された農地や森林、捨てているもの、実に膨大な「もったいない」に囲まれていることが。

「津波」に続いて「もったいない」が世界共通語となり、アメリカ人が「Oh, It's Mottainai!」などと普通の会話で使うようになれば世界は変わるかもしれない。

参考文献「江戸時代にみる日本型環境保全の源流」農文協

WAHE プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所 江橋裕人

WAHE (ワヘ) とは?

Water(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙う TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年ザンビア南部州にて飢餓緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」と「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチペンビとカルブウエに決定した。



ザンビア共和国

Chipembi

中央州チペンビ地区

中央州カルブウエ地区

Karubwe

カルブウエ

菜園プロジェクト

使用不能だったポアホール(井戸)の修理により野菜農園への水供給を可能にし、並行して農民に野菜栽培法などのセミナーを開催。

3月1日(火)雨

ここ4週間雨無し。水まきが不十分で野菜にダメージ。井戸とタンクがあるのに。トマト、白菜も不調。ミーティングで担当者を変えるようだ。それが自ら行われるだけ救いか。

3月8日(火)晴れ

レイプ、トマト、白菜が病気。キャベツも発育不良。対応が後手後手。男たちは草取りや畑耕をするが、水は撒かない。担当の女性が来ていないと言う。水撒きは女性だけの仕事なのか?

3月15日(火)晴れ

レイプも低調、キャベツは水が足りない。カリフラワーも出来は悪い。トマトもまた失敗。トマトは未だ成功していない。「とにかく水をきちんと撒かないと始まらない」と Mr.ケニスに訴える。



3月18日(金)晴れ

申請中の助成金交付決定(次項参照)。

4月22日(金)晴れ

助成金交付決定について報告。開墾状況を視察。約束通り

1.5ヘクタールはどうにかなりそう。やればできるじゃない！ソーラーポンプ、ドリッピングイリゲーションで野菜が育てばさ

ぞ嬉しいことだろう。助成金についてケニスと協議。この助成金は、今年のパフォーマンスしだいで今後が決まるので心し

てやってほしい。230万円=21,500ドル=103,200,000クワチャという天文学的数字になることを強調。

カルブウェ地区「菜園プロジェクト」に助成金が交付

昨年、カルブウェ地区で始まった“農民の自立支援”を目的とした「菜園プロジェクト」が評価され、この度、(財)国際開発救援財団(FIDR)の助成金2,299千円を受けることができました。プロジェクトの名称も「カルブウェ地区参加型農村開発プロジェクト」と変更し、新たなスタートを切りました。プロジェクトの概要は、菜園をさらに開墾して拡大。既存のボアホール(井戸)に太陽光発電ポンプとタンクを設置し水を貯める。そしてドリッピングイリゲーションシステムを導入することにより灌漑設備の充実を図る。同時に、各種ワークショップを行い技術移転と人材育成を目指す。最終的には、野菜の栽培と販売を成功させて収入向上へと繋げるというものです。

【担当者から】

調整員の仕事は計画がうまく流れるためのお膳立てである。例えば、太陽光発電ポンプ設置では「業者探し」「見積もり確保」「作業日程調整」「資材確保」等を調整。私の役目は必要な資源に繋げること。こういった活動の繰り返しである。

さて、そんな中で何を思うか。

現地の人に『夢見る力を持って欲しい』と願う。現地のことはそこに生まれ暮らす人々が一番良く分かっている。その通りと思う。では、彼らの生活向上を目指すプロジェクトを彼らに任せられるか。それも難しいと感じる。私が接する農村の人々は日々の暮らしで精一杯に見える。それゆえ、そこから先を、今の困難を打ち破ろうという気力を感じられない。村をどう良くしていきたいか、収入が向上したらどうするか、そういった経験がないのでイメージできないかのようだ。余計なお世話だが、それは悲しい。TICOが背中を少

し押し上げることで、ちょっと目線の向け方を示すことで、夢見る力を農民たちに持って欲しい。

今回のプロジェクトを通じて、「自分たちにもできる」と感じて欲しい。夢見る力があれば、その為に何が必要か考えるようになる。そこに更なる支援をして行きたい。ほんの少しでも彼らが自分達で歩き出せたなら私は幸せ。それが果たせたなら、この経験を糧に、より一層アフリカの為に尽くせたらと願う。

今回これほどの投資が可能となったのはTICO支援者の皆様のお力は勿論、財団法人国際開発救援財団より交付いただきました助成金のおかげです。様々な方々より有形無形の支援をしていただき、このプロジェクトは成り立っています。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

TICO ザンビア事務所 江橋

4月30日(土)晴れ

開墾はドリッピングイリゲーション導入までに間に合いそう。重機を使わずここまでやるのは大変。お疲れ様。



Mr.ケニスが菜園の土を soil makulu research に持ち込ん

でアドバイスを得てきた結果、少し酸性で石灰を混ぜ中性にすると良いらしい。



タンクスタンド完成。土台づくりにTICOからセメントを支援。ソーラーパネルの安全管理について協議。狙われやすいし、

一枚なくてもポンプは作動しない。

メンバーに現在の状況を絵に描かせ発表させる。「水不足」「労働力不足」「ものによっては成功している野菜もある」「家の仕事もある」等の声。助成金の総額を知らせたら、自分たちが裨益者で責任を負うと認識している模様。みんなに“夢”を聞いてみた。しかし、夢と言われてかなり戸惑っていた。日常で精一杯なので夢など考えられないのが本当ではないか。

5月16日(月)晴れ

たわわに実ったピーマンとナス。売らないことには始まらないので、けしかける。リーダーの Mr.ケニス がピーマンの売り先は探しているようだ。



5月23日(月)晴れ

タンクスタンド補強修理。続いて井戸の入り口ドアのバーグラー溶接、既存スタンド補強。発電機溶接機とピーターが大活躍！水撒き様子を伺う。ホースを使って、その先でバケツ三つに分けて水撒きをしている。



一つずつしか満たせず、他の二人はお喋り。非効率的！今度はタンクから水が無くなる。前もって満タンにしていない。「水不足が問題だ」と繰り返し農民たちは言う。「計画的にポンピング、水撒きをすれば十分やれるやないか！」と心の中で叫ぶ。

5月27日(金)晴れ

コミュニケーション円滑化ミーティング。

交差点に、このプロジェクトの看板設置を伝えると拍手喝采。宣伝効果も大きいし是非やりたい。

問題点協議。一生懸命働かない人を名指しで攻撃。激しい応酬！老若男女、体調不良者や、妊婦もいるので調整が必要だ。

会計報告。計算も対象期間も間違っていた。まだまだ学習過程。



チペンビ

・農村開発ローン



小規模農村開発ローン

事業資金の無利子貸し付け・研修指導を行い、農民グループの小規模起業を支援する。日本人サポーターも同時に募集中。

3月2日(水)曇り

ツエツエではとりあえず菜園に力を注ぐらしい。高価な野菜(ニンジンやニンニク)を栽培してもルサカまで運ぶ手段がない。大工の Mr.メリック 訪問。不在。ギルモアのテーブルは未完成。奥さんがいたので、来週出来ていなかったら、返金して貰うことを伝える。カリケンカ訪問。以前から2, 3回相談を受けていた熱心なグループ。結局タックショップ案に落ち着いた。

3月7日(月)晴れ

雨不足でチペンビ方面でもメイズは壊滅。もう雨が降っても

too late (遅すぎる)。

チノノに養鶏用の雛を届ける。前回の100羽はTICO / SCDPで25羽、CFCで25羽、ローカルで50羽を売ったらしい。今回は倍の200羽。さあ、どうなるかお手並み拝見。

3月9日(水)晴れ

まず Mr.メリック 訪問。テーブル4つができて塗装をしていた。期限を守っていないことは事実だが、先は見えたので金曜日に引き取りにくるから完全にしておくよう話す。ギルモア訪問。家具の状況報告、金曜日には全て届けられる旨伝える。

3月11日(金)晴れ

Mr.メリック 訪問。テーブルは完成していた。11月27日に依頼して3ヵ月半。やっと全ての家具が引き渡された。

4月25日(月)晴れ

Mr.ジョブを訪問、サングワポとカサカを対象とした養鶏ワークショップの予定を再確認。

チノノ訪問。204羽から10羽死去。ちょっとまずい。間違いなく病気だが詳細は把握していない模様。



4月27日(水)晴れ

カサカの養鶏ワークショップ。9人参加、上出来。「プロジェクトはあなた達次第、頑張るならTICOは手を差し伸べる」と話す。質問も出ているし、楽しそうにやっている。とりあえずは積極的な反応だったので、今日のところはよし。

カリケンカ(タックショップで申請中)を視察。店用建物のペンキ塗りなおし、窓設置を指示していたのだが、その通りにやっていた。これは嬉しい！ザンビアでペンキは高いのに、良

くやったものだ。当面のやる気は示されたので、5月中にはワークショップ、品物購入サポートすると伝える。

4月29日(金)晴れ

カサカのワークショップ最終日視察。学んだことを無駄にせず、自分たちの為にしっかり儲けて欲しい。君たちの育てた鶏で他グループのワークショップをやりたいと伝える。



チレンガレサ訪問。搾油機を使って作業しているではないか！嬉しい誤算。50キロバッグが5袋あり、あと15袋は自分たちのひまわりから取れるとの試算。5月18日、次回訪問時に20リットル買うと約束。

5月24日(火)晴れ

Mr.ジョブ訪問。カサカは養鶏ワークショップも済み、いつ難を持っていか相談すると、ニューキャッスル病がチベンビ地区に蔓延しているのだから控えるべきとのこと。

カリケンカは、お店建物はできているのでワークショップと物品購入のみ。

ツエツエではなんとハイエナにヤギが3匹殺された！不運は重なり、野焼きの火が菜園

フェンス(草)を焼き、そこからヤギが侵入、野菜全滅。

アグロフォレストリー

荒れ果て、やせ細った地力の回復のため、チベンビ農業大学と協力し、豆科の植物を植えることを農民に推奨し指導している。

3月2日(水)曇り

アグロフォレストリーフィールドデイは3月1日に決定。農民、CFCの学生合計100人ほど集め、模範農家を見学させ、質疑応答などで理解を深める。TICOはジュース軽食支援予定。

3月9日(水)晴れ

アグロフォレストリーモニタリング。雑草は気になるが、きちんとやってある印象。

3月11日(金)晴れ

本日はアグロフォレストリーフィールドデイ。CFCの学生、農民合わせて80人くらい。畑の持ち主のマコニさんから説明をもらい、ベルベットピーンズ、落花生、などの畑を見学。みな熱心で意見が飛び交う。



メイズも見学。マコニさんは砂質(良くない)と粘土質の畑を持っており、砂質のメイズは壊滅、粘土質は順調だった。

木陰に戻ってまとめ。さっぱりわからないが活発な意見交換。こうして皆さんが一生涯懸命やっていたら、TICOからの支援は続くよ、と当たり障りのないコメントで締める。

ディップタンク

あちこちで、壊れたまま放置されていた牛消毒用の薬浴槽(ディップタンク)の復活に取り組む。農民にとって、牛は大切な財産だ。

3月9日(水)晴れ

ムパタマトディップタンクチェック。水はたしかに入っていた。あとは薬液。

4月25日(月)晴れ

Mr.テンボ訪問。TICOにとって3つ目の支援であるカノンゴディップタンクを進めたいが自転車壊れて動けない、と言う。TICOで手配を約束。彼はディップタンクの中心人物で良くやっている。ディップタンク未使用エリアでは牛の死が報告されている。早く進めたい。

5月24日(火)晴れ

ムパタマトディップタンクやっと稼働開始。

救急隊整備プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所 五十嵐 仁

ザンビアには日本で言う119番の救急隊というものが存在しなかった。2002年10月から本格化したこのプロジェクトは人口200万の首都ルサカ市の救急隊の整備を目的としている。TICOと警察庁と消防局が連携し、ボランティア・警察官・消防官が救急隊の整備を行っている。このザンビア唯一の救急隊が24時間体制でルサカ市の救急救命活動を担っている。より迅速に現場に到着できるよう分駐所の開設を現在進めている。



3月1日(火)

JPR訓練を支えた現地職員

前号では、JPRによる救急救助技術訓練をお伝えしました

が、華やかな訓練を陰で支えたTICO/SCDPの職員

たちを紹介します。江橋職員。訓練期間中事務所を1人できりもりし、他の全職員がJPR神戸チームの受入に専念できるように配慮し、また、ビデオとカメラを手に、活動の記録を担当。そして、全体を把握して指示を飛ばし、事務所側の指揮官として活躍。

山田職員と小川職員。数ヶ月前から訓練に使用するテキストを英語版に翻訳。数十ページにもものぼる訓練テキストを完成。その他消防や警察隊員のユニフォーム作成や関係機関との連絡調整、確認など今回の活動の中核となる部門を担当。また、JPRの皆さんの朝食準備、お弁当作り、夕食会のセッティングなどかなり幅の広い業務を完璧に遂行。さらに訓練中は、それぞれ救急と救助チームに張り付き、同時通訳を行うなど休む間も無いほどだ。感謝。

4月22日(金)

ムナリ高校から赤十字クラブメンバー8名が救急隊東部分駐所を訪問。

この高校には、JOCV隊員が派遣されており、その紹介。

救急隊員が応急措置法や救急車を呼ぶための通報の仕方などを指導。最後には、救急隊管理委員会の委員長から生徒さんたちに救急隊民間支援適任証が手交された。受け取った生徒たちは、今日から私たちも救急隊を呼び人助けができると言って喜ぶ。



4月28日(木)

消防救急隊基礎訓練第1部終了

3ヶ月前から実施した、消防の救急隊員候補生に対する基礎訓練の第1部が終了。5月中には、中央消防署の他、工業団地署に救急隊と救助隊を1隊ずつ配置して、市内北部地区を担当してもらおう。まだ、完全ではないが、出動を重ねることで経験をつむことになる。



自作救助車誕生

今まで市内東部を管轄するチャイナマ隊には救助車がなく車両内部への閉じ込め事故には対応できなかった。

そこで、SCDPの古いトラックを救助車に改造。昼はSCDPの業務にも使用し、必要に応じ救助機材を積載して救助車として2役を演じることに。



5月23日(月)

ルサカのTV局がスポンサーに。

ルサカの民放MUV Iテレビ局が救急隊活動を今後追い、ドキュメンタリー的に放送していきたいという連絡が入る。幸運なチャンス。放映されるのはいいが、今の救急隊員のレベルで大丈夫だろうか？迷いがあったものの、テレビ局のオファーを受けてみようということになる。救急隊がルサカでは有名になり、いろいろな反響が出てくる。良い反響もあるが厳しい目で見られるので、改善策な

どはすぐに講じないとネガティブな印象を与えかねず要注意。しかし、救急隊には良い刺激となっており、SCDP/TICO救急隊活動広報ができ、うれしくも思う。隊員にとっても大きなインセンティブになっているようだ。

5月30日(月)

まだまだ続くTVの取材

この日も取材日。土曜の夜が一番事件事故が多い。南へ行く国道で大きな事故という一報。なんと車の原型をとどめない事故。相当なスピードで、カーブを曲がりきれず道路脇の木に激突、その後空中回転し数十メートル先に着地。すごい衝撃のようだ。怪我人はすぐに一般の人たちが助け、UTHへ向かったらしい。エアバックを搭載していたようだ。怪我人の様子を調査するためUTHへ。うつぶせになって担架に載せられていた運転手を見たが、けっこうしっかり意識もあり、頸椎がやられていたようだ。本当に幸運。事故は本当に怖いものだ。

この事故では車の中から2本のビール瓶が見つかった。ザンビアでは酒気帯び運転検査をする場合、警察官の立会いで、病院で血液検査をしないといけないため、ほとんど取締りがされていない。事故になればすぐに飲酒運転の疑いで逮捕するが、法廷まで行くことになり、警察側が負けることが多くある。

しかし、飲酒運転は改めて禁物と思う。一瞬にして人生を終了させてしまうなど危険だ。今回はエアバックのおかげだったが、ザンビアではあまりにも飲酒運転が多く、救急隊では困っているのが現状。番組の最後に、教育広報をする時間が5分間設けられた。そして、先週の放映でも、アンドレアさんが飲酒運転はしないでくれ！と訴えたばかりだった。

TICO 国内活動

平成 16 年度特定非営利活動に係る事業収支計算書
平成 16 年 9 月 13 日から平成 17 年 3 月 31 日まで

(2005 年 3 月 ~ 2005 年 5 月)

特定非営利活動法人 TICO

< 2005 年 3 月 >

- 10 日 (株)弘和薬品勉強会へ講師派遣 (吉田修代表)
- 18 日 (財)国際開発救援財団からカルブウエ事業に助成金決定
- 19 日 吉野川市ふれあいフェスティバル・パネルディスカッション(テーマ「NPO 活動」)へパネラーとして出席(福土庸二事務局長)
- 24 日 2004 年度保健分野 NGO 研究会 第 4 回アフリカ分科会へ出席(吉田修代表)
- 26 日 地球人カレッジ「青年が見たザンビア」(江橋裕人 TICO ザンビア事務局長・小川英美香 SCDP インターン生)
- 29 日 県と NGO のミーティングに出席(吉田修代表・福土庸二事務局長)

< 2005 年 4 月 >

- 2 日 関西国際交流団体協議会主催「NPO の広報強化のためのスキルアップセミナー」出席(登健太郎事務局長)
- 18 日 神戸より救急救助機材引き取り(福土庸二事務局長・鈴木一城さん)
- 23 日 地球人カレッジ「南米音楽ミニコンサート」(吉田徳明さん)
「ワークショップ~世界がもし 100 人の村だったら~」(常見裕之さん)
- 24 日 ザンビア行き中古医療機器整備及び積み込み(坂東直洋さん・岩田祥三さん・武村敦夫さん・小野裕次さん・吉田修代表・福土庸二事務局長)
- 27 日 横浜市から救急車の寄贈を受ける

< 2005 年 5 月 >

- 10 日 木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣(福土庸二事務局長)
愛媛大学法学部講義・国際協力論へ講師派遣(吉田修代表)
- 16 日 ザンビアスタディツアー参加者募集開始
- 21 日 JOCV 看護職ネットワークへ講師派遣(吉田修代表)
- 23 日 阿波西高校 2 年ボランティア福祉コースへ講師派遣(福土庸二事務局長)
- 29 日 NPO 法人 TICO 第 1 回通常総会
地球人カレッジ「神戸の救急救助技術、海を渡る ザンビアへ」(正井潔さん)

E-mail で情報入手

地球人カレッジ開催などのイベント情報を E-mail で提供しています。ご希望の方はメールアドレスとお名前をご記入の上、zikomo@nmt.ne.jp までお知らせください(パソコン・携帯両方とも対応しております)。

科 目	金	額	(円)
I 経常収入の部			
1 会費収入	961,000	961,000	
2 特定非営利活動に係る事業収入			
・生活向上の機会を著しく 奪われている人々の問題解決への協力事業	7,758		
①民生改善事業	(0)		
②ルサカ市救急隊整備計画	(0)		
③早魁に強い村作り・チベンピ	(0)		
④早魁に強い村作り・カルブウエ	(2,673)		
⑤ザンビア事務所運営	(5,085)		
・会報及び出版物の発行	0		
・国内での開発教育に関する事業	0		
①徳島県内外の学校、講演会、 セミナー等への講師派遣	(0)		
②地球市民教育勉強会〔地球人カレッジ〕の開催	(0)		
③スタディーツアー	(0)		
・他の市民活動を行う団体に対する 連絡、相談、助言等の事業	0	7,758	
3 助成金収入	12,600	12600	
4 寄附金等収入			
・国内寄付金	3,108,851		
・海外寄付金	45,365	3,154,216	
5 雑収入			
・為替差益	0		
・その他雑収入	40,029	40,029	
6 徳島で国際協力を考える会よりの繰越金	7,046,772	7,046,772	
経常収入合計			11,222,375
II 経常支出の部			
1 特定非営利活動に係る事業費			
・生活向上の機会を著しく 奪われている人々の問題解決への協力事業	3,357,678		
①民生改善事業	(0)		
②ルサカ市救急隊整備計画	(1,857,953)		
③早魁に強い村作り・チベンピ	(607,771)		
④早魁に強い村作り・カルブウエ	(229,852)		
⑤ザンビア事務所運営	(662,102)		
・会報及び出版物の発行	54,380		
・国内での開発教育に関する事業	26,000		
①徳島県内外の学校、講演会、 セミナー等への講師派遣	(0)		
②地球市民教育勉強会〔地球人カレッジ〕の開催	(26,000)		
③スタディーツアー	(0)		
・他の市民活動を行う団体に対する 連絡、相談、助言等の事業	0	3,438,058	
2 管理費			
・旅費交通費	123,310		
・郵送料	520		
・荷造り運賃	0		
・消耗品費	0		
・研修費	0		
・保険料	0		
・支払い手数料	8,335		
・会議費	0		
・会費返還	10,000		
・人件費	600,000		
・図書・資料費	1,000		
・支援・連携・協力費	100,000		
・雑費	186,127	1,029,292	
経常支出合計			4,467,350
経常収支差額			6,755,025
III その他資金収入の部			
1 固定資産売却収入	0		
その他資金収入合計			0
IV その他資金支出の部			
1 固定資産取得支出	0		
その他資金支出合計			0
当期収支差額			6,755,025
設立時資金有高			0
その他の事業会計からの繰り入れ			0
次期繰越収支差額			6,755,025

ありがとうございました (敬称略)

寄付をくださった方々

西尾正己 美馬安子 牧野博行 戸井裕江 畑和子
宗本クニコ 正木スミエ 中山久仁子 土屋奈歩
山田順子 田中怜 小野裕次 井形和枝 福士庸二
福士美幸 五十嵐仁 山川中学校 木屋平中学校
江橋裕人 城西高等学校 阿波西高等学校 卒寿会
県民ネットワーク募金箱 ヒラオカ薬局 さくら
診療所

会費を継続して払ってくださった方々

西村賢三 井内一志 井形和枝 梅久美保 畑和子
垣原宏治 梯真由美 齋藤陽子 貞野有香 本庄敬
大瀧知津枝 尾崎富美子 古川久美子 佐藤慶子
武市秀男 田所幸枝 茶畑勝博 中村晃一 松岡哲
也 濱田公子 町田美佳 松浦和美 株式会社幸耀
西部営業所

新たに会員になってくださった方々

藤田美樹 関谷晴孝 唐住輝 唐住洲子 堀井健司
(2004年3月1日から2005年5月31日までの
事務局入金分: 順不同)

(TICO への入会方法)

会員となって資金面から TICO の活動をサポートして下さるかたを募集しています。入会ご希望の方は郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。インターネットの TICO ホームページからも入会申し込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター『Face to Face』を毎月送付いたします。

【正会員】 12,000 円

【賛助会員】 個人: 12,000 円 学生: 6,000 円
団体: 15,000 円

(通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい)

振込先: 郵便振替口座 01640-6-37649
振込先加入者名: TICO

Eメールアドレスをお知らせいただいた方には TICO の各種イベント情報をメールにてご連絡申し上げます。

TICO の活動は皆様からの会費やご寄付によって支えられています。会費の納入がお済みでない会員の方は、納入下さいますようお願いいたします。なお、郵便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いただけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いいたします。

NPO法人TICO

第1回通常総会

去る5月29日(日)、TICOがNPO法人となって初めての通常総会が行われ、昨年度の事業報告と収支報告があり、その後、今年度の予算案が紹介され、全会一致で承認されました。また、役員については全員留任となりました。その他、今年度は、ワールドビジョンと共同でマラウイにおける HIV / エイズ対策事業を立案中で、今後、この案件を外務省に申請し、申請が通ればこの秋にも新規プロジェクトとして実施される見通しであることが報告されました。

役員は右記のとおりです。また、収支報告については、7ページをご覧ください。

代表理事	吉田 修
理事	福士庸二
	渡部 豪
監事	田中直康

お知らせ

講師派遣

TICO では学校の総合学習の時間などでの国際理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっています。お問い合わせはTICO事務局まで。

チベンビ農村開発ローン支援者募集

事業 No.8 養鶏事業 (サングワボクラブ)
事業 No.9 タックショップ(カリケンクラブ)
支援金一口 5000 円。各グループから支援者の方に定期的に手紙が届きます。

TICO ホームページで TICO からの最新情報をご覧ください！！

<http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/>

個人情報の保護について

TICO は、個人情報について、ニュースレターの発送、各種イベント及び会費の案内以外には利用しないようにいたします。

募金のお願い

TICO のザンビア支援活動は皆様からの寄付金や会費により支えられています
(事務局の作業軽減のため領収書は発行していません。必要な方はお申し出下さい)

郵便振替口座 01640-6-37649 振込先加入者名: TICO

TICO ニュースレター Face to Face 第4号 2005年6月発行

発行人: 吉田 修 編集担当: 福士 庸二

【TICO 事務局連絡先】

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 212-6 電話: 090-7786-3193 / FAX: 0883-42-5527

TICO ホームページ: <http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/> e-mail: zikomo@nmt.ne.jp